

認知症一行詩部門〈小学生の部〉

最優秀賞

加瀬 誠仁

茨城大学教育学部附属小学校 2年
(茨城県)

優秀賞

田中 里沙子

若狭町立三宅小学校 6年

井上 公成

若狭町立瓜生小学校 5年

坪内 翔

若狭町立瓜生小学校 5年

森下 穂波

若狭町立岬小学校 2年

五井 晴己

若狭町立三方小学校 5年



わかる？ わからない？
どうでもいい
いってくれるだけでいい
このままずっと……

加瀬 誠仁



私

自己しようかい

とても上手になったよ

おじいちゃんのおかげかな？

田中 里沙子

目薬をさしてあげると
口開けて待つてるおじいちゃん
おいしくないのこうれしそろう！

井上 公成





「あれど「やったんかいなあ
じきわすれてしもてあかんわあ」
ぼくの大きいおばあちゃんの
口ぐせです。」

坪内
翔

「そやったけな」と言っから
「そっやで」とたえるよ

森下 穂波



昨日のこと聞いたけど
五十年前のこと教えてくれた
ありがとう

五井 晴己



認知症一行詩部門〈中学生の部〉

最優秀賞

宮川 拓馬 若狭町立三方中学校 年

優秀賞

山中 大輝 若狭町立上中中学校 2年

松宮 生秘 若狭町立上中中学校 2年

世儀 季更 若狭町立上中中学校 年

後藤 の 横手 立 田中学校 年(田県)

豊田 成美 若狭町立三方中学校 2年

今日五回目のお「ずかい
ありがとう
気持ちだけでもらっておくよ

宮川 拓馬



今日は何曜日や？
NHKのニュースつけてくれんか？
家族が七時に受ける
じいちゃんの注文

山中 大輝



だれにでも優しくかったおばあちゃん
こんどは
たよってね
わたしたちを

松宮 生秘





左手のごみをもらおうと
さし出した私の手に
右手をかさねた おばあちゃん
今は仏だんの前で私は手をかさねる

世儀 季更

認知症の祖母に
短歌の宿題やつてもらった
全部壊れてるわけじゃないのを発見！

後藤のはら





笑いすぎて涙が出る私
でもおじいちゃん
本当は違うの
本当は寂しさがこらえきれないから
笑い泣きに見せてるんだよ

豊田 成美

認知症一行詩部門〈一の部〉

最優秀賞

難波 安津子 山県 山

優秀賞

井田 壽一 県東近

前田 鈴子 井県若狭町

川路 武志 県大山

鎌田 道子 葉県 橋

河嶋 栄子 山県瀬 内

子ども産みたいなあつて
ばあちゃん八十歳やで！
でも

子育てしとる時が幸せやったんやなあ

難波 安津子



寝巻の裾に畑の土をいっぱい付けて
片跣で母が帰って来た
抜くには早い大根を引き
きれいに並べてある

井田 壽一





糞漬を漬ける私に拍手する
「母ちゃん 上手」と拍手する
お姑さん

あなたが教えてくれました

前田 鈴子

「ばあさん」と言っつては
仏壇で手を合わせる祖父
おばあさんは隣に居るのにな

川路 武志





「すまないね道子」と言っていて乗り
「運転手さんお代はいくら?」と言いつつ
下りる母の言葉に
心が揺れたあの日

鎌田 道子

義母はマジシヤン
タンスからお茶碗
冷蔵庫からトイレロール
あげくの果て 自らも
突然どこかにイリユージョン

河嶋 栄子



人 人

一行詩部門〈小学生の部〉

最優秀賞

川上 立城 若狭町立瓜生小学校 5年

優秀賞

稲垣 颯一郎 横手 立 田小学校 年(田県)

新田 麻湖 若狭町立野 小学校 2年

山本 翔真 若狭町立 小学校 6年

井口 翔太 若狭町立 の里小学校 6年

山田 有璃 若狭町立三方小学校 年



「いっしょにまます」
「いっしょにうっさつ」
「ただいま」
「おかえり」
いつもの言葉が幸せです

川上 立城

里親になってくれてありがとう
一番はお母さんが好きだけど
二番目に好き

稲垣 颯一郎



ひがし日本大しんさいで
こまっっている人がいるから
お金を入れにいきました
百二十二円入れたけれど
これでたりるかな

新田 麻湖



茨城県の出張先に帰る
お父さんが心配で
九十才のおばあちゃんが
がんばって書いたお経をわたしました

山本 翔真





朝おじいさんにあいさつをした

次の日

畑のことを教えてくれた

ぼくは学校のことを教えた

井口 翔太

ふあんになったら横を見て
ほらね
わたしがちゃんとしついでよ

山田 有璃



人 人

一行詩部門〈中学生の部〉

最優秀賞

石井 雄斗 若狭町立三方中学校 年

優秀賞

橋本 珠奈 若狭町立上中中学校 2年

藤井 麻友 山 立誠 中学校 年(県)

玉井 春菜 若狭町立上中中学校 年

田辺 香菜 若狭町立三方中学校 2年

大野 恵子 若狭町立三方中学校 年

防災訓練をして
久しぶりに見る近所のばあちゃん
元気にしてよかったなあ

石井 雄斗





あなたの思っている「こと」と
私の思っている「こと」が
いつも逆
でも なぜか大の仲良し……

橋本 珠奈

生きることで
となりにいる人を思うこと
となりにいる人に思われること
かなって思う

藤井 麻友



笑顔でそっと手をさしのべたら
そっと笑ってくれた
それだけで幸せになった

玉井 春菜





学校行けて
テレビも見れて…
こんな生活
少しでも分けてあげたいな

田辺 香菜

生きていくことが
当たり前じゃなく
奇跡だと感じた

大野 恵子



人 人

一行詩部門〈一の部〉

最優秀賞

浅沼 秀俊 井県小

優秀賞

矢田 康子 静 県三

山本 由美子 大 田

伊東 伸也 県 川

海野 兼夫 玉県狭山

田辺 由紀子 井県若狭町

実家の近所のおばさんに会ったたびに
「大きくなったね」と
言われ続けて
もう十五年

浅沼 秀俊



スーパーで
三陸産わかめを手にした
そして静かにカゴにおいた

矢田 康子



少年は語った
父は手を振り笑いながら
津波にのまれて逝きましたと

山本 由美子





「がんばれ」とは
誰も書かなかつた励ましの寄せ書き
一文字一文字に
思いやりが「もる

伊東 伸也

知り合いの鼻ピアス娘
ボランティアから帰るたび
飾りのいらない
大人の女の顔になる

海野 兼夫



あなたを生んだ時
私はあなたの一番の味方に
なろうと思った
でもあなたが今
私の一番の味方になっている

田辺 由紀子

